

令和3年度第1回
台東区総合教育会議
(令和3年10月28日)

台東区総務課

○日 時 令和3年10月28日(木) 午前10時34分から午前11時32分

○場 所 庁議室

○構 成 員

区	長	服部	征夫
教 育	長	矢下	薫
教育長職務代理者		神田	しげみ
教 育 委 員		高森	大乘
教 育 委 員		垣内	恵美子
教 育 委 員		末廣	照純

○関 係 職 員

総 務 部 長	野村	武治
教育委員会事務局次長	梶	靖彦
総 務 課 長	小川	信彦
庶 務 課 長	佐々木	洋人
指 導 課 長	瀧田	健二
教育改革担当課長	工藤	哲士
兼 教育支援館長		

○日 程

- 1 区長挨拶
- 2 教育長挨拶
- 3 議 題

(1) 小中学校におけるICT教育の推進について

<配布物>

- ・ 次第
- ・ 資料 小中学校におけるICT教育の推進について

午前10時34分 開会

○小川総務課長 それでは、失礼して、着座のまま進めさせていただきます。

これより、令和3年度第1回台東区総合教育会議を開会させていただきます。

私は事務局を務めます、総務課長の小川でございます。よろしくお願いいたします。

会議に入ります前に、傍聴についてお諮りいたします。この総合教育会議は、原則として公開することになっておりますので、本日提出される傍聴願につきましては、許可したいと存じますが、いかがでございましょうか。

(異議なし)

○小川総務課長 ご異議ございませんので、傍聴については許可いたしたいと存じます。

なお、本日の傍聴希望者はありません。

なお、議事録作成のため、録音をさせていただきますので、あらかじめご了承いただければと存じます。

また、新型コロナウイルス感染症予防のため、適宜室内の換気をさせていただきます。寒い等、何かございましたら、事務局までお申しつけください。

それでは、開会にあたりまして、服部区長よりご挨拶をお願い申し上げます。

○服部区長 それでは、着座のまま失礼いたします。おはようございます。

本日は何かとお忙しいところ、お集まりいただきましてありがとうございます。また、先ほどは上野小学校の現場を視察させていただいてありがとうございます。

令和3年度第1回総合教育会議の開催にあたりまして、ご挨拶を申し上げます。

新型コロナウイルス感染症の拡大により、教育現場にも多大な影響があったことと思います。しかしこの困難を、教育委員会をはじめ多くの皆様のご尽力によりまして、区内の小中学校での教育が実施できていることについて、皆様方のご努力に感謝を申し上げさせていただきます。

また、本日の議題は、『小中学校におけるICT教育の推進について』です。先ほども視察をさせていただきました。今後も学校教育で重要となっていく、ICT機器を活用した学習環境の充実について、どうぞ皆様から、またご意見をお伺いしたいと考えておりますので、よろしくお願いいたします。

本日はありがとうございます。

○小川総務課長 服部区長、ありがとうございます。

続きまして、矢下教育長よりご挨拶をお願いいたします。

○矢下教育長 先ほどは上野小学校で、区長、教育委員の先生方にご視察をいただきありがとうございます。上野小学校学校長の話にもあったように、今日の視察で子供たちも、先生方も緊張されている部分もあったかもしれませんが、やはり本日視察を受け入れていただいていたよかったなと思っていますし、今日の視察が、さらに上野小学校の次のきっかけに、動機付けになってくれたらいいなと思います。

また、今日は後ほど担当の方からICTの活用実践例ということでお話をしますけれども、

今日の上野小学校、それから台東区のほかの教育現場でやっている様々なことを通じて、教育委員会としては、子供たちが頭で考えて、それをまとめて、表現にして、人に伝えることにICTであるとかタブレットを活用してもらいたいと考えています。そして主体的・対話的で深い学びを獲得してもらいたいというふうに考えておりますので、引き続き学校を支えていく活動を続けていきたいと思っておりますので、どうかよろしくお願いいたします。

本日はよろしくお願いいたします。

○小川総務課長 矢下教育長、ありがとうございました。

それでは、本日の議題に入らせていただきます。議題は、次第にございますとおり、『小中学校におけるICT教育の推進について』でございます。教育改革担当課長からの説明の後に、委員の皆様よりご意見等を頂戴できればと存じます。

それでは、工藤課長、ご説明をよろしくお願いいたします。

○工藤教育改革担当課長 こんにちは、教育改革担当課長兼教育支援館長の工藤でございます。どうぞよろしくお願いいたします。

私からは、題にありますとおり、台東区立小中学校のICTの活用事例ということで、お話をさせていただきます。今日のご説明内容ですが、小学校の活用事例、中学校の活用事例、最後に今後についてという順番で説明をさせていただきます。

まず、小学校の活用事例になります。初めに、金竜小学校です。これは、全校朝会の様子になります。左は校長室ですが、校長室からオンラインで全教室に配信をしております。児童は教室で校長先生のお話ですとか、児童のお話ですとかを参観するという形になります。

続きまして、忍岡小学校です。こちらは、体育朝会の様子でございますが、資料の左上の写真を見ていただくと分かる通り、中央にテレビがあります。テレビには児童が映っており、児童の演技を見て、子供たちが一緒に教室の中でストレッチをやっているという様子でございます。

続きまして、浅草小学校です。これは児童集会をオンラインでやっている様子です。集会委員会が、『聖徳太子クイズ』というクイズをしています。あちらに並んでいる数名の子供たちが一遍にいくつかのワードを言い、そのワードを各教室の児童が聞き取って当てるというクイズを集会で行っています。コロナ禍において、一度に全児童が集まれない中、テレビやマイクロソフトTeams、教室の電子黒板等を活用し、オンラインで集会を行っています。現在は、このノウハウを雨天時の集会にも活用する形を取っています。

続きまして、東浅草小学校のオンラインでの帰りの会です。教育委員会より、各小中学校に対して、各児童に令和3年9月10日までにタブレットを持ち帰らせて、接続が可能か確認を行う依頼をいたしました。これは東浅草小学校が児童の下校後、各家庭でTeamsが接続できるかどうかを確認している様子になります。そして接続の確認後、帰りの会をオンラインで実施しているという様子でございます。

続きまして、田原小学校です。資料の左下の写真を見ていただくと、テレビ画面に映っ

た児童と教室にいる児童が映っています。こどもクラブ等に所属している子供たちは学校に残ります。先に下校した子供たちと一緒に、教室でオンライン帰りの会をやった後、こどもクラブに行くという形です。

続きまして、富士小学校の授業の様子になります。これは3年生の算数の授業で、足し算と引き算の筆算をしています。今日、上野小学校でも見ていただきましたが、SKYMENUというソフトを使い、児童がタブレット上で筆算を手書きで行っています。全ての児童の筆算の結果を画面に投影して、自分のものと比較をいたします。そして、まとまった式をノートに記述をするという学習です。

続きまして、谷中小学校です。4年生の音楽の授業で『旋律の特徴を感じ取る』という学習です。こちらはTeamsを使ってグループを作り、一つの楽譜の図に対して、旋律の特徴を全員で記入をしております。そしてグループごとに、電子黒板で投影をして発表をします。その後、発見した旋律の特徴のよさを活かして、全員で合唱をしたという学習活動になります。

続きまして、千束小学校です。3年生の理科で『地面の様子と太陽』という学習です。これは影の変化に気づき、太陽と影の関係を調べる学習になります。学習の課題の写真を、各子供たちはタブレットで受信し、気づいたことをペンで記入します。そして、自分の考えと他者の考えを電子黒板上で比較をして確認をするという学習になります。

続きまして、蔵前小学校です。5年生の図工で『まるちゃんのお出かけ』という学習です。資料の左側の写真に写っている人形は、まるちゃんというキャラクターです。このまるちゃんを作成した後、タブレットのカメラで子供たちが撮影して、セリフを入力します。まるちゃんの気持ちを考えて、セリフの背景色や文字色を変更し、全員の作品を画面一覧で鑑賞した後に、自分のとっておきの1枚を実際に印刷して作品として持ち帰るという学習になります。

続きまして、中学校の活用事例に移ります。最初に忍岡中学校1年生の理科の授業で、『水溶液の性質』です。こちらは溶けるという現象を理解する学習を行いました。オンライン授業の練習として、教室でTeamsの授業を実施しました。資料の左側の写真を見ていただくと、生徒の数が少ないと思われると思いますが、これは1学級を2つの教室に分けて、それぞれの教室で体験をするという活動をしたそうです。最後に簡単なクイズをタブレット上に配信して、どれくらい学習内容が理解できるかどうかを確認しました。

続きまして、浅草中学校です。3年生の国語の授業で、『説得力のある構成を考えよう、スピーチで社会に思いを届ける』という学習です。これは資料の右側の写真を見ていただくとわかるように、生徒がタブレットを提示しながらスピーチを実施するという学習です。教室内で3グループを編成にし、グループ内でお互いに発表して、全員が時間内に終わるように実施をしました。

続きまして、駒形中学校です。2年生の国語の授業で『書写・行書・筆順の変化』という学習です。これは自分が習字で書いた文字をタブレットで撮影をして、パワーポイント

に貼り付けます。課題の文字の写真と自身が書いた文字の写真を実際に重ね合わせて、異なる点を客観的に比較したり、振り返りをしたりしました。行書特有の点描の連続や筆順の変化というのを、それによって理解をするという学習です。

続きまして、浅草中学校の3年生の美術の授業で、『飲料水のパッケージデザイン』という学習です。こちらは、インターネットでデザインを調べて、自分で商品を企画します。下書きや清書、絵具での色付けは手書きで行いますが、成分表の作成については、officeのExcel等を活用して学習を進めました。

続きまして、上野中学校です。2年生の総合的な学習の時間で、『Sotaくんを動かそう』という学習です。これはコミュニケーションロボットのSotaくんを実際に企業からお借りして活用する、企業と連携した授業です。班で東京の文化を英語で紹介するロボットを作ろうということで、プログラミングの活動をしました。実際にSotaくんに英語の発音をさせなければいけないので、英語を自然に学習することになる学習活動になります。

このように、上野小学校のほかにも、ICTを効果的に活用している様子が、各学校のホームページからも見られますので、ぜひ後ほどご参照していただければと思います。

最後に、今後についてです。全国各地でGIGAスクール構想が進み、1人1台タブレットを所持する環境になりました。文部科学省では、『StuDX Style』を提唱していただいて、整備された新たなICT機器等を子供たちは文房具として、先生たちは教具として、日常的に使用できるように提案をしています。

これまでご紹介した学習活動のほかに、保護者会、学校説明会、あるいは家庭学習等、様々な場面で活用できるよう、今後も教育委員会は支援したいと考えております。

私からの説明は以上です。

○小川総務課長 ありがとうございます。

それでは、教育委員の皆様より、ご意見・ご感想等をいただければと存じます。いかがでございましょうか。

では、大変僭越ではございますが、末廣委員は何かございますでしょうか。

○末廣委員 今日上野小学校で実際に授業を見学させていただいて、やはり非常に感心したのは、先生方も僅かな期間で非常にうまい具合にICT機器を使えるようになっていることです。それから児童たちも様子を見てみると、やっぱり手慣れた感じで使用していますね。操作がよく分からないといったことはほとんどないようで、僅かな時間でこれだけうまい具合に機器を活用している姿を見て、非常に感心しました。

このIT教育がICT教育に代わっていくことは、今までを振り返って見てみますと、平成11年くらいに、政府が教育の情報化、ミレニアム・プロジェクトというのを立ち上げて、そこからICT教育が必要だということを特に強調して言うようになったわけです。その中でやはり20年以上前から一般的に言われていることが、論理的な思考力・想像力・表現力、これらを向上させなくてはならないということです。専門教育の一種の反省とも言いますが、専門教育というのは、思考とか判断を深めるときに、体系的・多面的・知的・論理的

に意味付けして、学習していくということがほとんど顧みられていませんでした。いわゆる答えには多様な結論・答えがあるということが否定されているような教育でした。その反省から、平成11年にこのようなプロジェクトが立ち上がってきたと思います。その中で、特にITからICTに転換する、いわゆる情報技術から情報通信技術への転換です。コミュニケーション能力を育成していくこと、先生から生徒・児童への一方的な教育ではなくて、みんなで一緒に学習していくという共同学習をする形です。それから学校の外からの情報も得ていくという広い意味で考えられてきています。

それが今、実際に具体化していると思います。授業の在り方といえば、ICT機器を活用した授業を推進したほうが良いと言われていました。例えば、パソコンのディスプレイには授業開始とともに、全ての生徒の学習状況が表示される、これは今日の上野小学校での授業を見ると、そういう状況になっていることがわかります。ディスプレイに映った一覧表で、先生方は生徒の学習状況がすぐ分かり、児童、生徒の観察・指導ができます。そして目標に対して、生徒がどの程度理解しているかというのを、先生方は非常に分かりやすく把握できます。先生方の観察によって、生徒の目標ごとの理解状況が把握できます。今日拝見したのは一斉授業で、みんなが同じテーマで授業しているわけですが、これももっと進みますと、その生徒の能力、学習状況に応じて、一人ひとり違う課題を与えるというのが、最終的なICT教育の目標だと思います。今はまだこれからということですが、一斉授業の場においても、個々の教育、その児童・生徒のためのより親切的な教育ができる、それを目指すということが、既に平成11年にそういうことが言われておりました。最終的には個々の生徒に応じた指導が目標です。それを1人の先生がやると大変なことになりますが、ICT教育をうまく具合に活用していけば、できると思います。これらのことを最終的な目標として、ICT教育をしていただければありがたいと思います。以上です。

○小川総務課長 ありがとうございます。

続きまして、垣内委員、いかがでございましょうか。

○垣内委員 本日視察させていただいて、とても児童が楽しそうに学習されているところを拝見しまして、一つの大きな効果なのかなというふうに思いました。ICTを使うことによって、いろいろなことが『見える化』すると言われます。他の人と意見が違うというのはわかりますが、どのように違うのかというのがぱっと、若干表面的ではありますが見ることもできます。違いが分かるということも興味を引く点であると思いますし、そのときのスピード感、つまり今までだったら、いろいろな意見を集約して行って、少し時間をかけながらみんなで共有してきたところが、一瞬にして、円グラフで出るとかいうようなところで、非常にスピード感もあります。また、先ほど末廣先生がおっしゃったような、個別の対応もできやすくなったという意味で、非常に大きなメリットがあるというふうに思います。

現実社会で私もパソコンとインターネットなしでは、もう1日たりとも仕事ができませ

ん。おそらく皆さんもそうだと思います。その現実社会を見たときに、パソコンに慣れているということと、コンピューターリテラシーみたいなものが必要なのかなということはあると思います。学校も少しずつ進んできたところ、このコロナで大きなデメリットもありました。その反面メリットとして、ICTが一気に進みました。1人1台タブレット配布が前倒しで実現しWi-Fi環境も整いました。Wi-Fi環境はもう少し高速で、大容量のほうがいいのかもかもしれませんが、先ほどのスライドでもありましたように、皆さんの顔が見える形でオンライン集会ができるようになるほど大容量にはなりました。これは2年くらい前に視察させていただいたときに、よくパソコンがフリーズして立ち上がらない、止まってしまって授業が進まなかったことがあったことを考えると、格段に進歩し、すごく良いことかなというふうに思います。コロナでやむを得ず対処してきた中でも、良いものがたくさんありました。オンライン集会もそうですし、ビジュアルを使った様々な教育の在り方というのは、今後も続いていくと思いますし、さらに発展するというふうに思っています。

2点、思うところがあります。1点目はこの世代の児童というのは、デジタルネイティブの第2世代くらいになっていると思いますが、生まれたときからインターネットに接続し、情報があふれる中で、何が本当のことなのか、本物を見極める力というのがすごく重要なと私自身日々思っております。コミュニケーション力についてはいろいろなことが言われていますけれども、コミュニケーション力は非常に高くなったのではないかと思います。グローバルにもいろいろな展開があります。つまり、オンサイト、対面でやるだけではないコミュニケーション能力を身に付けていらっしゃるところは非常に強く感じているので、そこは心配していません。一方、情報選択力と言われる能力をぜひ養ってほしいと思います。たくさん情報の中、いろいろな情報を突合して、俯瞰的・総合的に自分で判断できるということが、最終的に非常に重要になってくると思います。そのためには、私の個人的な経験から言わせていただくと、基礎・基本になる知識、ベースになる知識がないと、判断できないと思います。それはやはり多ければ多いほど実は良いのだろうと思います。

私も大学とか大学院で教えていますが、ディスカッションするといっても、ベースになる知識とともに、きちんとした情報を、適切なボリュームで持っていないと、ディスカッションになりません。

なので最後は基礎・基本に戻ってくるというところもあります。同じ1日24時間の中で、何を教えるかというのは、いろいろと先生方が努力されるかと思いますが、ベースになる知識をやはりきちんと教えていただいた上で、この次の世代を担う人たちに必要となると思われる情報選択能力を養っていただきたいなというふうに思いました。

2つ目は働き方改革についてです。このICTというのは、他の分野でもよく言われていますけど、働き方改革に非常に大きなインパクトがあります。先生たちは今、ほぼ過労死ラインまで働いております。文部科学省のサイトでも、思った以上にネガティブな意見が多いことから文部科学省が対応できなくなったという話も聞いています。ICTをうまく活用

できれば、働き方に関してもポジティブなインパクトを与えることができ、非常に大きいのではないかなと思います。

私が関係しているのは文化観光の分野ですが、例えばホテル業界は、これまで労働生産性が低いと言われ、未熟な労働者でもいろいろな仕事をされてきました。今では、例えば駐車場に車が来ると、ナンバープレートがAIが確認して、どのお部屋に宿泊するお客様なのかということが、その車が入った時点で全てわかり、そういう形で生産性がぐっと上がるということがあります。

教育の場合、生産性を上げなければならない部分と、子供たちに教育をするという質的な部分があると思います。事務的な手続等で、生産性をぐっと上げることができそうな画一的なサービスについては、このICTをぜひ使っていただければなというふうに思っております。

以上になります。

○小川総務課長 ありがとうございます。

続きまして、高森委員のほうからもお願いします。

○高森委員 お二人の委員からICT教育の歴史や、これからの展望についてお話がありました。私からは本日実際に上野小学校を視察して感じたことを述べたいと思います。視点は二つあると思うのですが、1つは学習者の視点、もう1つは教育者の視点、この2つの視点でお話したいと思います。

まず、学ぶ側の児童たちの、つまり学習者の視点ですが、3年1組は道徳の授業で、歩行中の事故を題材にした学習を行っていました。画面上に子供たちの意見が一覧で表示されて、その後、直線のマトリクスを使って意見の分布を共有していくという興味深い授業でしたが、画面を共有しながら、多様な価値観の認め合い活動ができていたと感じました。

3年2組は国語の授業で、感じた秋を発表するというところで、子供たちが自分で選んできた題材を、いろいろ飾りつけをして工夫したパワーポイントでプレゼンテーションをして、他の児童たちに見せるといった授業でした。これは美術的なセンスも必要なので科目横断的な活動にもなるのかなと思いました。そういった授業の中で、様々な広がりが見られる点が、期待を大きくしたところでございます。

5年1組の社会科の授業は、食糧問題に関する討論が行われていましたが、ここでは統計資料を使った授業でした。先ほど、垣内委員がおっしゃったように、適切なベースとなる情報をしっかりと提示して、それを子供たちが分析して観察して考察して、その考察した内容を発表するという活動でした。発表は最後まで聞けませんでした。そういった一連の活動をなさったと思います。そこで先生が一言おっしゃったのが、「説得力のある発表をしましょう、しっかりと根拠に基づいた説得力のある発表をしてください」と、児童たちに投げかけていることがとても印象的でした。やはり様々な情報を分析して、その成果を他者にも理解できるように、他者との合意がしっかりとれるように発表するという、そのスキルを磨く中で、ICTが有効に活用されていたなど、実感いたしました。

5年2組の学級活動は、活動内容は何かなと思っていたら、遊び係だとか生き物係とかいろいろな係を子供たちがやっており、自分たちが取組んでいる係の1年間の活動の内容について、その具体的な事例を発表して、それぞれの係の活動の振り返り、反省点だとか良かったことだとか、そういったことを開き合う活動でした。自分たちがやってきたことを周りの皆と一緒に開き合って共有していました。

全体を通して今日の1日の活動が、認め合い活動だったり、開き合い活動であったり、それから説得力を表現する活動だったり、そういった様々な活動がこのICTを使って取組まれていることを実感しました。なかなか先生方も苦勞をされているところがあると思いますが、工夫されていたなと思いました。

次に、教育者の視点からということで、今度はお話します。先ほど、ICT活用実践例でもお話がありましたが、教具として先生がこれを使うのにどういった視点が必要かというお話です。詳しくはこの実践例でも話されていましたが、一言いうと、垣内委員が、「一度にして瞬時に多くの意見を表示できて、先生方がそこから拾い上げていくことができるのが大きな魅力だ」とおっしゃったとおりに、先生方が全体を見通すことがしやすくなったかなと思います。今までは手を挙げないと意見が言えなかったのが、手を挙げなくても画面上に全部表示できるようになりました。そうすると、例えば今まであまり、関心が寄せられなかった少数意見に、先生がスポットを当てて、「では誰々さんどうしてこういう意見なの」という投げかけができます。今までは拾い上げられなかった意見が、ICT教育を活用することで授業の中にも出てくるわけです。先生だけでなく授業を受けている児童たちも、自分の意見が採用されて、そこにまたいろいろな人の意見が聞けるということで、授業に取組む姿勢に活かされていくのかなという気もいたしました。自分の意見は少数だから、もうだれも聞いてくれないというのではなく、少数でもちゃんと拾い上げてくれるという、そういった活動ができるのは、このICTでなかったらできないのではないかなと、そんな気がいたしました。

それから、教材・教具としてのICTの活用の今後の展望ですけれども、例えば、学校の中で行われている授業は、1つのクラスだけではなくて、同じ学年の他のクラスでも行われるわけです。例えば他のクラスで得られた活動の成果を、自分たちの授業に持込み、他のクラスではこういう意見があったけど、ではうちのクラスはどうなのかなと比較するクラス間の情報の共有、そういったことも今後できるかなと思います。ICTは様々な可能性が秘められているデバイスではないかと思います。

これからも活用に期待をしております。以上でございます。

○小川総務課長 ありがとうございます。

続きまして、神田委員、何かございますか。

○神田委員 久しぶりに先生方と子供たちの頑張っている様子を上野小学校で見ることができ、本当にうれしく思いました。私がいた頃、もう3年前になりますが、その頃から台東区では、学級に1台ずつタブレットを導入といった取り組みを行っていましたが、やは

り1人ひとりがタブレットを持つということはこんなに学習内容が違ってくると、改めて驚きました。それと同時に、学校全体でICT教育推進の取組みを進めていることも感じられました。例えば、今日の道徳の授業で、自分の考えが画面上で一目瞭然に分かり、話合うちで変わっていく様子も分かるようになっていました。私が上野小学校にいたときは、子供たちの名札を使って気持ちの変化を表していました。タブレットで簡単に表すことができ、本当に私はうれしく思います。またICTの活用で、子供たちが考えたことを発表する程度しかできなかったことが、今日は様々な活動に利用されていました。子供たちは文房具として、そして先生方は教具として、幅がとても広がって良かったと思います。コロナで一気にICTの活用が進んだということで、私はタブレットにおいて、学習面と生活面の2つの面で活用することができるのではないかと思います。令和の日本型学校教育の推進において、個別最適化と協働的な学び、この二つが必要です。例えば、今日もありましたけれども、子供たち1人ひとりの課題が分かり、それに向けた指導ができます。末廣先生もおっしゃっていましたが、個に応じた学びが推進され、個別の課題ができるようになり、これからもっともっと進んでいくのではないかと期待しました。

例えば家庭学習にも力を入れているという話も聞きました。繰り返し基礎的なことを学ぶ上で、このタブレットが活用できます。学校でできることとなると、子供たち同士で学び合いができる、学び合いのツールとしても活用ができることです。そういった意味で、思考ツールの活用、思考の可視化、構成を考えたり、まとめたり、広げたり、そういったことにどんどん使い、深い学びに導いてほしいと思いました。

生活面では、コロナの感染者が多いときなどは、早めに帰ったり、少し遅れて出てきたりする児童に対して、朝の会や帰りの会をタブレットでやったということも聞き、有効だと思いました。また、不登校の子供たちも参加できるといったメリットが出てくることも期待もしています。

コロナが収束した後も、元に戻るのではなく、こういったICTを活用したものを残していくことも必要だと思いました。例えば、校外へ見学等に行く場合に、本物を味わうというのもいいのですが、忙しくて受け入れができない企業や工場などに、ICTを活用して少しお話を伺うという使い方でもできます。

先生方の会議でもICTを活用することによって、移動時間が短縮でき働き方改革にもつながってきます。コロナ収束後もそのまま活用できるものを考えていくといいです。

それから、先ほど他の委員の皆さんから意見が出ていましたけど、タブレットを使うということで、主体的・対話的で深い学びに導いていく、そこを実現するといった視点をしっかり持って先生方も活用してほしいと思いました。最初、子供たちは興味を持っていて面白いと感じると思いますが、だんだん慣れてくると、飽きてくる部分もあると思います。そういった意味でも視点をしっかり押さえて学習に活用してほしいと思いました。

それから、授業で活用しやすい教科というのもあるのではないかと思います。例えば具体的な活用例やICTを活用できる教科の指導案を併せてモデルを作れば、ICTに抵抗のあ

る先生方も取組んでみようかなという気持ちになるのではないのでしょうか。5年生の若い女の先生がいらっしゃいましたが、校内で一番ICT機器を使えると聞きました。これが若さのすばらしいところだと思います。誰かに教えてもらったのかと聞くと、そうではなく、自分で調べて身に付けたと言っていました。若い先生が年配の先生に教えているような姿が目に見えましたが、それもまたいいのではないかと思います。ICTに少し抵抗のある先生もいらっしゃると思いますが、先生方への指導・研修をすることも考えてもらいたいと思います。もちろん、区教育委員会の方でも研修を進めていると思いますが、研修の成果を少しずつ共有していきながら、働き方改革にもつなげてほしいと思います。

それから、タブレットを活用したことで学力の向上につながっているのかも調査をしてほしいです。

ICT教育はそれぞれ小中学校で取組んでいますが、仮に中学校の先生方のほうが扱いがうまいということがあった場合、小中学校の連携を図って、今後区全体がさらに推進を進めていけるような方向に持っていくという手もあるかと思いました。

タブレットの利便性とは逆に、セキュリティーの問題、いじめに発展する問題があると思います。配慮すべき点についても考えていく必要があるかと思いました。

区教育委員会の方でこの取組みを勢いよく進めていただいた経緯は本当にすばらしいと思いますし、これからもぜひ推進していただきたいと思います。バージョンアップや修理等の不都合が出たときにどのような対応をするかということ、支援員の配置については早い段階から区教育委員会の方では配置してくださっていましたが、支援員の配置と活用については各学校でさらに進めていただきたいと思います。

研修については、区教委の実施と学校内での実施、両面から進めてほしいです。

最後になりますが、企業や大学との連携を考えると、いろいろな使い方に広がるのではないかと思います。

子供たちが楽しそうに授業しており、とても良い取組みを見させていただきまして、本当にありがとうございました。

○小川総務課長 ありがとうございました。

それでは、矢下教育長、お願いいたします。

○矢下教育長 今日の上野小学校の視察までに何回か他の学校でも活用しているところを見させていただいていますが、確かにみんな生き生きとして活用しているなどと思います。フリーズしたりとか、いろいろな問題はありますが、やはり最初に逆に感心したのは、区長、区議会議員、あるいはいろいろな方の意見があって、教育委員会は、ICT機器配布割合を3人に1台を変えたわけです。そのときはプレッシャーを感じましたが、プレッシャー以外に支援もしていただき、今はこの姿になって、本当に良かったなと思っています。

今日の授業を見ていても、以前他の学校の授業の様子を見たときもそうですが、私なんか想像もつかないような使い方をしているというのが正直な感想です。それは先生の発想もあるでしょうし、コンピューターのプログラムの中身、アプリの問題もあるんでしょ

うけど、そういう使い方をしていくことは、多分ICTの社会で今と将来を生きていく子供たちにとっては、基本的なことになり、そのためにやっぱり今いる学校というのは、すごくいい場所なんじゃないかなと今日も思いました。

例えば小学校で言えば、それぞれの専攻がある、得意な分野がある先生たちがたくさんいて、それぞれの特色を持ったこと、いい部分でタブレットを使っていただければ、子供たちに様々な形の刺激が行くので、これはやっぱり一番いい形なのかなと思います。子供たちはもちろん自分たちで使い方をどんどん考えていくでしょうけど、先生方も無理に全て同じレベルじゃなくて、自分の従来持ってきた経験とか、子供たちに伝えたいことのために、タブレットをどう活用していくかを考えていけば、差があってもより良く子供たちのために役立って使えるのかなと思っています。今、教育委員会は担当も私どももそういうふうには話していますが、学校では先生方がタブレットの技術はみんな同じにならなきゃいけないというプレッシャーを持っています。そうではなく、簡単なことしか使えない先生だとしても、きっと有効に使える使い方はあるはずです。それは他の先生の中でも共有し、研修を通して学ぶ話も上がりましたが、ぜひ今後ともやっていきたいなと思っています。

それから、保護者の方から「区長への手紙」でたくさんいただくのは、コロナとかで通学が難しくなることからオンライン授業をやってほしいというような要望が出されます。実は今日見ていただいてもそうですが、保護者の方が言うオンライン授業とは、教室の風景を撮影し、すぐ映像を流すことを言いますが、タブレットはそういうことよりもっといろいろな可能性があります。教育委員会として、逆に、PTAや保護者の方たちにもうちょっと理解してもらわなきゃいけないというのは改めて強く感じたところです。そういうふうには理解してもらえれば、学校に出てくる要望も、実際にもっと子供たちのためになるような要望につながるのかなと思ったところです。

教育委員の先生方にたくさんいい話をいただいたので、私からは2つの懸念を申し上げたいと思っています。1つ目は、やっぱり事例が出ているセキュリティーの問題、いじめの問題です。インターネットはそもそも大人が使っても詐欺の問題とかがあるわけで、どうしてもその辺のセキュリティー問題を子供たちが気を付けるは難しいし、完璧に対処することはできないのかもしれないかもしれません。少なくともいじめにつながるとか、コミュニケーションをよくしようという道具で逆に悪くなることのないような工夫は、教育委員会として1つ1つ続けていかなきゃいけないと思います。これはまだ完全な解決策がないので、それこそ走りながら考えていかなければなりません、セキュリティーの問題は常に考えていきたいと思っています。

それから2つ目は、そもそものICTを推進するときに、GIGAスクール構想の中では、共同的な学びもありますが、個別最適な学習がかなり押し出されていました。末廣先生もおっしゃいましたが、子供の持っている能力を生かすために、個別最適な学習はいいですが、これは極論をしていくと、塾へ通わせようという話とちょっと似てくる部分があり、経済

的な親の背景が子供の格差にやっぱり繋がる可能性がどうしてもあると思います。公教育、区の教育が持っている役割は、経済格差とか様々な格差がないようにするべきことなので、その辺のやり方、工夫を考え、どんなふうにICT教育を推進していかなきゃいけないのかということは、常にこれから考えていかななくてはいけないなと思っています。

子供たちがどんどん楽しく、先生たちがまた働き方改革をしながら使っていただけると本当にありがたいと思います。以上でございます。

○小川総務課長 ありがとうございます。

教育委員の皆様から、様々なご意見・ご感想をいただきました。服部区長もお願いできますでしょうか。

○服部区長 このICT教育ということが文部科学省の方から方針が出され、台東区教育委員会が活用について考え出したのは、もう2年前からですかね。初めてのICT教育ということもあり、まだその頃はあまりピンと来なかったわけですが、当時からいろいろな課題等も言われましたし、また、メリットも言われてきたわけですが、GIGAスクール構想を一つの方向として、また、国の方向としてもやっていこうということで、区の方もそれをいち早く取り入れました。タブレットについて、当時は各教室で数台ということでしたが、これはやはり児童・生徒1人ひとりあるべきだということで、早期に全児童・生徒へ取り入れました。私も今日現場に伺ってみて、良かったなというふうに思います。

当初こういったタブレットの活用というのは、例えば何か物事を検索するのに、瞬時に結果が出てくるわけですね。我々は、例えば言葉を調べる際、以前は広辞苑を開いて、そして調べていくという方法でした。そうすると、隣にある言葉の意味も入ってきますから、知識の範囲が広がる、そういうやり方でずっと我々は慣らされてきました。新聞もそうですけど、活字文化でずっと慣らされた我々が、どう併用していくか考えていくことが私は必要だと思っています。

その中で、今日現場を見させていただいて、これまで親としても授業参観へ行って授業を見てきましたが、タブレットを活用した授業でまったく風景が違いました。これはやはり、先ほど教育長が心配されていましたが、まずこれも保護者に、自分の子供はこういったタブレット教育をやっているんだ、という授業参観をするといいいのではないかと思います。新型コロナウイルスの影響で今までなかなかできなかったわけですが、これもぜひ教育委員会としても実施して、まず子供たちは現場でこういうふうに行っているんだということも見ていただくと、その保護者のタブレット教育、あるいはオンライン等についての意見も変わってくるのかなと思います。まず保護者に見ていただくと理解していただくということがやはり大事なような気がしました。

それと地域の方ですね。やはり学校教育は、先生・子供・保護者・PTA・地域が一体となってこれからも進めていくわけで、やはり地域の方にもこういったタブレット教育、ICT教育というものを機会があれば見ていただくということも今後大事になってくると思います。また、その中からいろいろなご意見もいただけると思いますのでぜひやっていた

だきたいなというふうに思います。

私も今日授業を見て、その中の道徳の授業で、児童の意見がイライラするといったネガティブ意見だったものが、30分後見てみると今度はポジティブな意見に変わっていました。それも先生がそう押し付けたのではなく、子供たちがいろいろ議論をしたり、自分で考えたりしていることがごく自然に行われ、意見が変わっていくというのも、これはすごいなと思いましたね。

それから、クイズ係というのがあるんですね、今学校に。部活ですかね、あれは。

そのクイズ係の子供たちがいろいろやって、楽しそうな様子を見ることができました。ある児童がほかの児童を「クイズに答えることが早いんだよ」と褒めていて、楽しそうにやっていらっやいました。それで、ひとりの児童に「何か新しいクイズができたのか、ちょっと教えてよ」と言ったら、「ROA」というんですね。「なにこれROAって」と聞いたところ、『ROAから0を消したらどうなるのか』、というクイズでした。「0」を消すと、「0、消すと、RA（オーケストラ）」なんだよね、分かりますか。そんなクイズを子供たち同士で出して、すごいクイズを考えたね、なんて話しました。そんなふうにもう、子供たちがもうある意味でタブレットを使いこなしているといえますか、まだまだ始めたばかりにしても、これからもっと広がるなということを感じました。上野小学校が目指していることとして、学校で配布された資料に書いてありますけれども、『いつか「お箸」のように』と書いてあります。まさにお箸のように、特定の用途から汎用的に広がっていく、今日現場を見てそうなるなというふうに思いました。

それと、ハプニングがありましたよね、地震。これは見事でしたね。本物の地震ですよ、訓練ではなく。それを、子供たちが本当に落ち着いて、先生の指示で机の中に身を非難させたあの行動というのは、よほど訓練をしていないと私はできないと思うんですね。担任の先生もすぐにヘルメットを着用しました。そのうち校内放送が流れて、担任の先生の指示に従って行動しなさいと指示がありました。これは本当に見事でした。これは各小学校ともそういった訓練をやっていると思うんですけども、こうしたことは大事だなと思いましたね。

そんなこともありましたけれども、今回こうしたICT教育の課題を先ほどから指摘がありましたけれども、今後セキュリティのこと、プライバシーのこと、あるいははじめのこと、あると思います。スマートフォンでもそうですけれども、我々はやはり、正しい情報を判断させる、情報があふれていますからね。特にこういったパソコン等をやっているとなんにもいろいろな情報が入ってきます。それをどう正しく考えて判断をしていくかというのは、これはまた非常に重要なことだと思います。その点で、今後ぜひこういったICT教育をさらに推進していただいて、単なるツールとしてではなくて、それを本当に日常のお箸のように、しかしまたそういった課題も考えていきながら、取組んでいただき、進めていただければと思います。

本当にいろいろと、教育委員会の皆様もこの短期間でご苦労もあったと思いますけれど

も、よろしくお願いいたします。

○小川総務課長 服部区長、ありがとうございました。

その他、ご意見等ございますでしょうか。

よろしいでしょうか。

(なし)

○小川総務課長 本日は、数々の貴重なご意見をいただきまして、誠にありがとうございました。

これをもちまして、令和3年度第1回台東区総合教育会議を閉会とさせていただきます。

本日は、誠にありがとうございました。

午前 11時32分 閉会

※会議当日、総合教育会議が行われる前、出席者は台東区立上野小学校にて現場視察を行っていた。

※10月28日午前9時55分頃、茨城県南部を震源とする最大震度4の地震があった。